

学会記事

I. 運営委員会報告

2006年10月7日に信州大学松本キャンパス(理学部内)において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2005年度収支決算(案)について審議した。
2. 2006年度収支予算(案)について審議した。
3. 学会賞の受賞記事の扱いについて審議し、下記のことが了承された。
 - ・受賞記事は、「植生情報」に掲載する。
 - ・受賞記事の原稿は、表彰委員会で作成する。
 - ・受賞記事の体裁等は、植生情報編集事務局と表彰委員会で協議・検討する。
4. 植生学会第12回大会(2007年度)および第13回大会(2008年度)の開催地について審議し、下記のことが了承された。
 - ・第12回大会は、岡山理科大学(岡山市)で開催する。
 - ・第13回大会は、東日本地域(候補地:東京農工大学)で開催する。

II. 編集委員会報告

2006年10月7日に信州大学松本キャンパスにおいて開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 「短報」の扱いについて審議し、「短報」の定義を一部改正した。
2. 学会賞の受賞記事の扱いについて審議し、表彰委員会に掲載誌と掲載内容の検討を依頼した。
3. 追悼記事の扱いについて審議し、内規を作成した。
4. 電子メールを用いた投稿および原稿校閲について審議し、来年度からの運用をめざして投稿規定等の改訂を検討する。
5. 別刷りのPDF化について審議し、来年度からの導入を決めた。今後、著作権等の問題を検討する。

III. 企画委員会報告

2006年10月7日に信州大学松本キャンパスにおいて開催した。審議・報告事項は以下のとおり。

1. 群落談話会の開催について審議し、日本生態学会第54回大会(2007年3月,松山)の自由集会での開催が了承された。
2. 植生データベースの公開について審議した。今後Web上で追加登録・修正等ができるシステムを構築する方向で検討する。
3. 国際生態学センター主催「JISE生態学研修(植生調査の方法と実践)」への支援について審議した。学会として講師派遣などを積極的に行う。
4. CPD(継続教育制度)への登録について審議し、継続審議とした。
5. シンポジウムの開催について審議した。「自然保護」や「自然再生」をテーマに来年7月か9月、関西地域で開催することを検討する。

IV. 表彰委員会報告

2006年10月7日に信州大学松本キャンパスにおいて開催した。審議・報告事項は以下のとおり。

1. 受賞記事の扱いについて審議した。
2. 学会賞等の候補者推薦について審議した。

V. 2006年度総会報告

2006年10月8日に信州大学松本キャンパスにおいて2006年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 学会事務局

2006年10月6日現在の会員数(正会員569名,団体会員15団体,賛助会員1団体)が報告された。

2. 各種委員会

上記I-IVの運営委員会および各種委員会の審議・報告事項が報告された。

B. 承認事項

1. 植生学会2005年度収支決算(別掲1[†])を承認した。

2. 植生学会2006年度収支予算(別掲2[†])を承認した。

[†]総会において報告した植生学会2005年度収支決算の一部に誤りがあったため、運営委員会で協議し、それぞれの金額を一部修正した。

C. その他

第12回大会開催地となる岡山理科大学の波田善夫氏より、多数会員の参加が要請された。なお開催日は2007年10月6日から8日(一般講演は7日)。

VI. 学会賞

2006年度の学会賞各賞の受賞者は以下のとおり(敬称略)。表彰は2006年10月8日の総会・学会賞授与式において行われ、各受賞者に表彰状と記念品が菊池多賀夫会長から贈呈された。

学会特別賞 伊藤秀三(長崎大学名誉教授)

宮脇 昭(横浜国立大学名誉教授)

学会賞 沖津 進(千葉大学園芸学部)

奨励賞 石田弘明(兵庫県立大学自然・環境科学研究所)

VII. 植生学会第11回大会報告

植生学会第11回大会(大会会長:土田勝義,実行委員長:島野光司)が、2006年10月7日から9日にかけて信州大学松本キャンパスにおいて開催された(下記日程)。一般講演では口頭発表26題,ポスター発表33題の発表が行われた。参加者は予約申込者167名,当日参加者38名の計205名であった。また、総会・学会賞授与式では、学会特別賞を授与された伊藤秀三氏の受賞記念講演が行われた。

10月7日:各種委員会,運営委員会

10月8日:一般講演(口頭発表・ポスター発表),総会・学会賞授与式(受賞記念講演),懇親会

10月9日:エクスカージョン(霧ヶ峰コース,上高地コース)一般講演は以下のとおりであった。

<口頭発表>

A01 遺伝子組換えダイズの長期栽培が雑草の発生に及ぼす影響。池田浩明・吉村泰幸・松尾和人(農業環境技術研)

A02 植生復元工法施工地における1年目の森林植生復元状況。桑原佳子・足立高行(応用生態技術研究所)・中西茂樹(エコユニット協会)

A03 照葉樹林における埋土種子相。田村和也(株)里と水辺研究所)・服部保(兵庫県立大)

A04 比良 八雲ヶ原北部湿原の自然再生 1. 計画と地形の復

別掲1. 植生学会 2005 年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予算	決算	差異	備考
前期繰り越し		3,704,535	3,704,535	0	
会費		3,392,000	3,310,000	82,000	
雑収入	バックナンバーなど	300,000	1,007,212	-707,212	
	利息	500	32	468	
計		7,397,035	8,021,779	-624,744	
支出の部					
植生学会誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	2,087,654*	-387,654	*第 22 巻および発送料
植生情報刊行費	300,000 円×1 回	400,000	663,600*	-263,600	*第 9 号
送料		250,000	120,240	129,760	
学会事務局経費		500,000	442,609	57,391	
編集事務局経費		150,000	162,600	-12,600	
植生情報編集費		40,000	10,430	29,570	
企画委員会経費		300,000	0	300,000	
大会補助費		250,000	250,000*	0	*第 10 回大会分
予備費		3,807,035	105,480*	3,701,555	*会計事務局経費を含む
計		7,397,035	3,842,613	3,554,422	
収支差額 (繰り越し)		0	4,179,166	-4,179,166	

別掲2. 植生学会 2006 年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2006 年度	2005 年度	差異	備考
前期繰り越し		4,179,166	3,704,535	474,631	
会費		3,536,000*	3,392,000	144,000	*一般 499, 学生 98, 団体 14, 賛助 1
雑収入	バックナンバーなど	300,000	300,000	0	
	利息	500	500	0	
計		8,015,666	7,397,035	618,631	
支出の部					
植生学会誌刊行費	850,000 円×2 回	1,700,000	1,700,000	0	
植生情報刊行費	400,000 円×1 回	400,000*	400,000	0	*第 10 号
送料		250,000	250,000	0	
学会事務局経費		600,000	500,000	100,000	
編集事務局経費		150,000	150,000	0	
植生情報編集費		40,000	40,000	0	
企画委員会経費		300,000	300,000	0	
大会補助費		350,000*	250,000	100,000	*第 11 回大会分
予備費		4,225,666	3,807,035	418,631	
計		8,015,666	7,397,035	618,631	

- 元工事. 山崎俊哉・丸井英幹・梅原徹 (環境設計株式会社)
- A05 北東北における雑木林の管理方法が林床植生に及ぼす効果. 島田直明・平塚明 (岩手県立大)・丹治真季子 (盛岡市役所)・黒田恵里 (ハマゴムエイコム (株))・川嶋実菜 (元岩手県立大)
- A06 萌芽更新を計画したコナラ二次林の林床管理の有無が種組成に与える経年的な影響. 八木正徳 (都立新島高校)・星野義延・篠原正太 (東京農工大・農)
- A07 富士山南麓の風倒跡地における 9 年後の植生回復と稚樹の生育状況. 吉川正人・加藤絵里子 (東京農工大・農)・相場芳憲 (東京農工大名誉教授)・鷹見雅夫 (住友林業

- (株))
- A08 乗鞍岳における木本, 草本, シダ植物の標高経度にそった植生変化. 宮島悠・佐藤利幸・高橋耕一 (信州大・理)
- A09 南アルプス中・南部の高山植物群落. 加藤健一・富田美紀 (静岡大・理)・長谷川裕彦 (明治大)・佐々木明彦 (東北大・理)・大野啓一 (横浜国大)・増沢武弘 (静岡大・理)
- A10 台湾の中標高域における自然林群落の種組成. 大野啓一 (千葉県立中央博)・星野義延 (東京農工大・農)・井関智裕 (東京植生研究会)・星野・今給黎順子 (星野フィールドサイエンス)
- A11 岡山市北部の異なる地質地域における地形形状と植生と

- の関係. 石川笑子(岡山理大院・総情・生地)・波田善夫(岡山理大・総情・生地)
- A12 かしわもちとちまきの植生学的研究. 服部保(兵庫県立大)
- A13 都井岬草原における外来牧草の侵入・優占状況について. 西脇亜也・岡秀一郎(宮崎大・農・自然共生フィールド科学教育研究センター)
- B01 東北地方におけるタケ類天狗巣病による竹林枯死の現状. 橋本佳延(兵庫県博)・服部保(兵庫県立大)
- B02 大阪府吹田市千里ニュータウンにおける竹林の拡大と種多様性の低下. 武田義明・花田暁子(神戸大・発達科学)・内田圭・栃本大介(神戸大・院・総合人間科学)
- B03 宮崎県綾町の照葉原生林における着生植物の種多様性. 栃本大介(財)ひょうご環境創造協会)・服部保(兵庫県立大)・岩切康二(岩切環境技研株式会社)
- B04 里山地域における地域スケールの β 多様性. 根本真理・星野義延(東京農工大・院・農)
- B05 イヌブナ林とブナ林の分布の違いを規定する地理的環境要因. 本間秀和・福嶋司(東京農工大・院・農)・松井哲哉(森林総研)・西尾孝佳(宇都宮大)
- B06 長野県ブナ天然林における葉緑体 DNA ハプロタイプの地理的分布. 小山泰弘(長野県林業総合センター)・成瀬友季(名古屋大・農)・高橋誠・渡邊敦史(林木育種センター)・戸丸信弘(名古屋大・院・生命農)
- B07 多摩川河川敷における表層堆積物粒径と出現する植物の種子特性の関係. 岩田直人・星野義延・吉川正人(東京農工大・農)
- B08 茨城県小貝川におけるオオブタクサ発芽サイトの群落組成. 川田清和(農業環境技術研)・土方直美・中村徹(筑波大・環境科学)・池田浩明(農業環境技術研)
- B09 オブジェクトベース分類による相観植生図作成手法の検討. 鎌形哲稔・原慶太郎(東京情報大・院・総合情報)・森大・赤松幸生(国際航業)・李雲慶(日本スペースイメージング)
- B10 落葉広葉樹林帯における鎮守の森とその125年間の変化. 三上光一(森の学校 キョロロ)・細井雄次郎(長野市立博)
- B11 都市公園(北の丸公園)と天然林(南九州)における雑種分布の比較. 小林悟志(情報システム研究機構新領域融合研究センター)
- B12 モンゴルにおけるステップ植生の植物社会学的研究. 程云湘(筑波大・生命環境)・川田清和(農業環境技術研)・烏云娜(大連民族大)・中村徹(筑波大・生命環境)
- B13 アフリカ南西部ナミビアに分布する *Faidherbia albida* と *Acacia erioloba* の樹形, 開花パターン比較. 沖津進(千葉大・園芸)
- <ポスター発表>
- P01 高分解能衛星データを用いた植生タイプ判別の検討ー佐倉市の里山地域を例としてー. 長谷川奈美・星野義延(東京農工大・農)・原慶太郎・鎌形哲稔(東京情報大)
- P02 衛星画像(ASTER)を用いた霧ヶ峰草原の植生変化の把握. 尾関雅章・堀田昌伸・川上美保子・大塚孝一(長野県環境保全研究所)
- P03 東海地方の湧水湿地における微生物立地が植生構造に及ぼす影響. 肥後睦輝・岡田篤史(岐阜大・地域科学)
- P04 ヨシ根切りによる低茎の湿生草本群落の再生. 関岡裕明・平山亜希子・松村俊幸(ハスプロジェクト推進協議会)
- P05 立命館大学自然緑地内における植生保全ー移植された中間湿原の管理手法の検討ー. 迫田昌宏・原田昭(中外テクノス株式会社)・橋詰琴美(学校法人立命館)・吉田真(立命館大・理工)
- P06 富山県内のアヤメ科植物の分布と群落の種類組成. 山下寿之・中田政司・神戸敏成・大原隆明・橋屋誠(富山県中央植物園)・李宏哲(雲南省昆明植物研究所)
- P07 外来種キツネノマゴ科ヤナギバルイラソウの生態学的特性と侵略性の検討. 宮本裕美子・石川慎吾・三宅尚(高知大・理)
- P08 高知県新荘川における河床の複断面化と河辺植生の変遷ー特にツルヨシ群落の専有面積の拡大についてー. 橋本恵(高知大・院・理学)・浅原暢貴・石川慎吾・三宅尚(高知大・理)
- P09 踏圧を利用した河川高水敷の植生転換. 高橋和成(岡山理大・院)・山本圭太(岡山芳泉高校)・波田善夫(岡山理大)
- P10 木曽川下流域ケレップ水制周辺の植生とタコノアシの生育立地. 比嘉基紀・師井茂倫・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P11 木曽川下流域ケレップ水制周辺に生育するタコノアシ個体群の立地環境. 師井茂倫・比嘉基紀・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P12 長野県上高地における地形変化と植生動態ー上高地自然史研究会の取組みー. 川西基博(立正大 ORC)・島津弘(立正大・地球環境)・石川慎吾(高知大・理)・岩田修二(立教大・観光)・山本信雄(松本市安曇資料館)
- P13 三峰川下流部河川敷における外来植物オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* 侵入群落の構造と立地環境条件. 斎藤達也(信州大・院・農学)・大窪久美子(信州大・農)
- P14 特定外来種ナルトサワギク (*Senecio madagascariensis* Poiret) の兵庫県淡路島における分布と生育立地特性. 藤原道郎(兵庫県立大/兵庫県立淡路景観園芸学校)
- P15 長野県飯山地域におけるカツラマルカイガラムシによる樹木枯れ. 大塚孝一・尾関雅章・須賀丈(長野県環境保全研究所)
- P16 つる被害を放置した人工林における植栽木の被害実態. 小野逸人・荒木真之・上條隆志・中村徹(筑波大・生命環境)
- P17 ハヶ岳西岳南西斜面における管理放棄型カラマツ植林地の群落構造. 磯谷達宏・樋口健太郎(国士館大・文・地理)
- P18 斜面工法の異なる植栽林の下層植生における組成および種数の比較. 黒田有寿茂(兵庫県立大)・澤田佳宏(兵庫県博)・服部保(兵庫県立大)
- P19 淡路島に生育するアゼトウナの分布状況を基にした生育地の保全に関する一考察. 長島千夏(兵庫県立淡路景観園芸学校)・藤原道郎・一ノ瀬友博・美濃伸之(兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県立大)

- P20 スキー場は草原生植物の避難場所として機能するか?—兵庫県但馬地方におけるスキー場植生の種組成—。澤田佳宏(兵庫県博)・松村俊和(兵庫県和田山農林事務所)・黒田有寿茂・服部保(兵庫県立大)
- P21 東京 23 区北西部地域の広域避難場所における樹林の防火力診断。山崎智彦(東京農工大・農)・福島司(東京農工大・院・共生科学)
- P22 神戸市再度山永久植生保全地におけるマツ林の遷移。福井聡(神戸大・院・総合人間科学)・武田義明(神戸大・発達科学)・小館誓治(兵庫県立大)・高橋敬三(神戸市森林整備事務所)
- P23 早池峰山における高山植物の出現状況。竹原明秀・佐藤雅巳・村田野人(岩手大・人文社会)・千葉博(岩手県立不來方高校)・高橋秀洋・小水内正明(社)東北地域環境計画研究会)
- P24 八甲田山の山地帯から亜高山帯にかけての林内表層堆積物の花粉組成と植生との関係。中村琢磨(横浜国大・院・環境情報)・高原光(京都府大・院)
- P25 東北地方オオシラビソ疎林の実生定着を規定する要因について。若松伸彦・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P26 九州脊梁山地のモミ・ツガ林—冷温帯落葉広葉樹林移行帯における尾根植生の変異と立地環境。伊藤哲・近澤亜也子(宮崎大・農)
- P27 奥鬼怒地域におけるウラジロモミ・シウリザクラ林の構造と 13 年間の森林動態。別所直樹(筑波大・生命環境)・小川みふゆ(森林総研)・上條隆志(筑波大・農林)・津山幾太郎(筑波大・生命環境)
- P28 三宅島照葉樹自然林における 2000 年噴火前後の植生変化。仲山真希子(筑波大・院・環境科学)・上條隆志(筑波大・生命環境)
- P29 伊豆諸島利島における東西斜面間での垂直分布の差異の成因。小嶋紀行(横浜国大・院・環境情報)
- P30 熱海市(静岡県)に分布するコナラ林の植物社会学的研究。牛島早絵・山本美和・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P31 中部山岳におけるシダ植物相の山塊効果について。佐藤利幸・尾鼻陽介・高橋耕一・井田秀行(信州大・山岳総研)
- P32 サドノウサギの植生利用。清水理恵・島野光司(信州大・理・物質循環)
- P33 松本市街地の水路特性と水生動植物—市街地における水路の価値を見直す—。百瀬剛・山本雅道・桜井智子・松本章夫・山田徳生・島野光司・吉田利男(NPO 法人 川の自然と文化研究所)